

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295800078		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	医療法人社団駿甲会グループホーム実夢静波 1F		
所在地	牧之原市静波203番地の1		
自己評価作成日	平成25年7月25日	評価結果市町村受理日	平成25年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2295800078-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8マルシビル6階
訪問調査日	平成25年8月21日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設して3年。ご利用者様が、居心地良く、穏やかに生活が送れるよう支援しています。
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の気持ちを理解できる、思いやりをもった職員を“静波ブランド”と称しており、それが理念のように浸透している事業所です。職員と一緒にひまわりの種を選定をする利用者に出迎えられ、また職員だけでなく利用者からも朗らかな挨拶発信があり、自由度の高さが瞬時にみてとれました。職員の定着率も高いため、希望休・公休が満足ゆくようにとれるなど職場環境も上質なことがシフト表からも視認できました。また、訪問時にも、職員間で業務をフォローし合う進言や声掛けが耳に入り、チームワークの高さが視えました。昨年の10月から音楽療法の効果評価研究に協力し、毎回40分程度午前と午後1回ずつの音楽に触れる時間があり、音楽療法士も週1回訪問しています。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設3年が達しました。職員全員で新しい理念を考え取り組んでいます。	職員会議では必ず「私達はどのようにしていきたいのか」を話し合っていて、理念につながる志や考えについて意識しあう機会があります。そのような取り組みから、開設からの理念を昨年度替えることにも至っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日は、近所のスーパーへ買い物に出掛けたり、散歩をしています。また、駐車場に出てレクをしていると、近所の方が遊びに来て下さいます。地域のお祭りには駐車場を解放して交流を行っています。	事業所の場所が2つの班にまたがっていることから、自治活動は自然に広域になっています。近所の庭に実った梅のおすそ分けからジュースを作ったり、事業所のレクリエーション活動に近所の高齢者が日課として参加している例もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の定期開催で、各班長様の出席をいただいたり、町内への施設ニュースの配布を行い、地域方々への情報発信を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月の1度の開催です。行政、包括、町内会長、民生委員、各班長、ご家族等の参加を頂いています。	運営推進会議は行政や自治会、民生委員の参加も得て隔月開催されています。「家族の参加が少ない」とのこれまでの課題も、管理者が電話などで個々にお願ひすることで解決されつつあります。また、面会では発言しないようなことも意見してくれ、参加者の良い刺激となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加を頂いたり、適宜、指導、助言を頂いています。	運営推進会議の案内と議事録を直接窓口へ届けており、行政職員や地域包括支援センター職員の参加も毎回あります。また、困難事例の問い合わせがあったり、事業所新設に関しての打診があるなど、行政からの声掛けをよくもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な会議で話し合いを行っていることと、権利擁護等の研修に参加しています。	年に1回は必ず管理者が外部研修に出向き、内部の勉強会で共有させ、また「だめ」ではなく「どうしましたか？」と声を掛けるようにと繰り返し伝えていきます。8時間勤務の中で1時間しっかり休憩をとるようにするなど、メンタル面のケアにも配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で話し合いを行ったり、権利擁護等の研修に参加しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と説明 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいらっしゃるため、定期的に話し合いを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居→入居前に施設見学と、説明を行い契約前にも十分に理解していただいています。退居→ご家族が困ることのないよう、適切に対応させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、ご家族や御親戚からの、ご意見等をいただき、職員間で共有しています。	「実夢静波ニュース(月刊)」や運営推進会議議事録も毎回届け、日頃の様子を知ってもらえるよう努力しています。面会の少ない家族でも事業所の餅つきや花火鑑賞にも親戚をともなって訪れてくれるなど、家族との日常的な交流があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で、意見や、気づきを報告し合い、情報を共有しています。担当制になっていますので、細かく対応しています。	利用者の気持ちを理解できる、思いやりをもった職員を「静波ブランド」と称していて、職員に理念のように浸透しています。職員の定着率も高いため、希望休・公休が満足ゆくようにとれるなど職場環境も上質なことがシフト表からもみてとれます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設での情報を、定期的に法人本部に報告し、法人全体での運営基準に合わせ、職員が働きやすい職場作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人との連携で適宜、研修に積極的に参加しています。また、外部の研修にも職員が参加できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等で他事業所の職員機会を持っています。また、法人内のグループホームや小規模多機能施設などの情報火交換を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に個人面談を行い、入居直後にもご本人の意向が聴けるよう努めています。ご家族とは、ご本人とは別に、面談の機会を設け、本人の意向、ご家族の意向の確認等を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切なサービスを提供し、ご家族との信頼関係作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切なサービスを提供し、ご家族との信頼関係作りにも努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される、立場でなく、入居されている方々と職員が家族のように過ごせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族との連携を重視し、ご本人を中心に关わる人で、支援していける関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を取り入れ、その人主体で生活が送れるよう努めています。ご本人、ご家族の希望があれば、ご友人等の面会もできます。	姪が手製のブラウスを届けてくれるなど、親戚や友人の訪問が多くあります。利用者の身体状態の変化により、通っていた理容店が来訪による散髪を継続してくれる例もあり、また在宅の頃の習慣として「食事に梅干し」、「水やり」、「針仕事」などを続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定位置での座席にこだわらず、レクなどの時は、積を替える等の工夫をしています。またフロア毎ではなく、常に行ったり来たり関係ができ幅広い交流が行えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も困りごと等があったら、遠慮なく連絡をもらえるようお願いしています。退居後もご家族が訪問されたり、連絡をいただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で得られた情報を元に、その人らしく暮らせるセンター方式を取り入れ、支援を行っています。また、ICFに基づいた考えで、できることの継続支援も行っています。	知人・友人の訪問者が多いため、家族だけでなく訪問者からも何気ない会話から聞き取るようにしています。独居だった利用者の、「家の様子を見たい」との要望にも職員が都度応えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅でのケアマネジャー情報を元に、ご家族からの情報収集、センター方式には、ご家族にも記入していただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状況などについて、アセスメントを行い、日々の支援(支援経過・受診記録・排泄記録等)から、ひとりひとりの現状の把握に努め情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の際は、ご本人ご家族の意向を伺い担当者がケアプラン会議で話し合いを行っています。	パーソンセンタードケアの実践により、職員の都合目線にならない姿勢があり、プランに反映されています。担当がプランの下地を作成し、計画作成と話し合った後、ケアマネジャーが監修するという流れで作成していて、「チームでつくる」ということが叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のスタッフ会議やケアプラン会議で、情報交換や意見交換等の話し合いを行い、都度、ご本人の変化等に対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしく、居心地の良い生活が送れるよう支援しています。個々の状況に合わせ、訪問介護サービス等の利用で対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々の訪問や、地域のボランティアさん、小学生からのアルミ缶回収の寄付などをいただき、地域で安心して過ごせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診はもちろん、かかりつけ医への受診も職員が対応しています。法人母体が病院のため、連携がとれ、常に適切な医療が受けられるよう支援しています。	「普段みている人が付添うのが本人にも医師にもよい」との管理者の考えから、通院は職員がすべておこなっていて、家族にも喜ばれています。看護師の訪問も週1回あり、また管理者が看護師ということもあって、判断が早めにつくという大きな利点をもっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問があります。常に24時間、連絡がとれる体制が整っているため、看護師の助言・指示が受けられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体である医療法人病院との連携はもちろん、地域の先生方との連携が取れています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは適切な時期に、終末期についての意向を伺ったり、話し合いを行っています。いちばんは、ご家族の意向を重視した支援ができるよう努めています。	重度化の指針も用意され、家族との合意形成もできています。また、職員に「ここで送ってあげたい」「わたしがいるときに逝ってほしい」との思いがあることが何より心強く、看取りにおいてもチームワークのよさがみてとれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時オリエンテーションや、定期的な勉強会で応急処置の勉強を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、地震、津波に対する訓練を行い、毎月、消防機器の点検を行っています。防火管理者は3名です。	運営推進会議では避難方法や優先順位について頻りに話し合っており、共通の理解としています。年2回の訓練のうち1回は消防署職員も参加しています。法人が安否確認システムを導入していて、また本年度は各施設の管理者はハム4級を取得することが義務づけられました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような発言は禁止です。研修に参加し、尊厳の保持に努めています。	「尊厳を守ることがその人らしさへの対応に繋がる」と考えていて、新入職員は必ず接遇研修に参加しています。職員間のチームワークがよいことが、利用者サービスにも繋がっていることを訪問時にも視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で、本人の思いが引き出せるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に業務が優先してしまうこともありますが、ひとりひとりのペースに合わせられるよう業務の見直しを行ったり、居心地が良い生活が送れるよう職員が努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院や床屋に行けるよう、職員が対応しています。お化粧品ボランティアさんの訪問も受け入れています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みが激しい方には、調理専門の職員が工夫して提供しています。時に外出してランチをしたり、アイスやたいやき等を買って食べています。食事の準備や片づけは、できる方や、やりたい方にはお願いしています。季節の物を楽しみます。週3回の買い物には一緒に出掛けます。	ご飯に汁物、主菜に副菜2品、デザートとボリュームのあるメニューがたちまち消えてゆき、日頃の健啖さが覗えます。調理師免許をもつ調理専門の職員による家庭的な味に利用者も満足気な様子でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状況に合わせて、量や形態を工夫しています。また、摂取量の把握も行い体重管理にも努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、必要時は協力歯科医院への受診を職員が対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄記録を行い、排泄パターンの理解に努めたり、病気の早期発見に努めています。オムツ→布パンツへ移行できるよう支援しています。	「紙オムツを減らす」ことを意識して取り組んでおり、職員の記録からも都度工夫している様子が見てとれます。定時誘導があるため、その時に全員の記録をとっていますが、そのほかは必要に応じておこなっています。3つあるトイレは向きを替えて設置しており、汎用性の高さがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとりひとりの排泄記録を行い、排便パターンを理解あいたり、水分補給や適度な運動、食事内容も工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時は決めていません。その方の意向に沿って、安心して入浴ができるよう努めています。	毎日湯をはって、時間も特に決めずに本人本位で取り組んでいます。また、苦手な人にも清拭や足浴に変更するなどし、清潔保持に努めています。石鹸を泡立てた素手洗いをおこない、剥離などの肌予防にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は決めておらず、その方のペースで過ごしていただいています。日中の活動量を増やして、安眠できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を添付し、内服薬や外用薬を管理しています。変更や追加には、申し送りノートを活用して、情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、その人主体で生活ができ居心地の良い生活が過ごせるよう努めています。ご家族にセンター方式の趣旨をご理解いただき、記入に協力していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	すべて、希望に沿って外出することはできませんが、できるだけ、希望に沿えるよう努めています。天気の良い日は近所へ出掛けたり、駐車場に出てレクを楽しんでいます。季節の行事等で出掛けます。	天候と体調を考慮した日常的な散歩にも努めていますが、お茶摘み・静岡空港など外出レクリエーションも豊富にあり、月2回程度はドライブがてら出かけています。また、職員がおこなうバドミントンの観戦も人気で、外気浴の一環となっています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物がある時は職員と出掛け、自身の財布からの支払い等を行い、おこづかい程度を管理させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された時は対応しています。年の初めには、年賀状を送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が安心して、穏やかに過ごすためには、ご本人の意向だけではなく、環境も大事です。居心地良く生活できるよう努めています。	前だけキャスターが付いていて移動しやすい特注の椅子をはじめ、1階はコーラル、2階はマンゴーイエローでカラーコーディネートされた空間は大変いやすい空気が流れています。エアコンのほかにも扇風機をつかうなどして、温度や空調も調整しています。	大きさの異なるテーブルや小さなソファを置くなどして、居場所づくりも検討されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	無理強いせず、ご本人の思いで過ごせるよう、努めています。色々な人と交流ができるような配慮もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人が過ごす大事なスペースです。ご家族の協力も得ながら、居心地が良い空間が保てるよう努めています。好んで好きな物や馴染みの物を持参していただいています。	収納容量十分のクローゼットによるすっきりとした空間に加え、備え付けの電動ベッドの存在感がやや温もり感に欠ける印象を残しますが、テレビや位牌など自宅から馴染みのものが持ち込まれています。また、ラジカセの音楽を楽しみにする利用者の枕元にはカセットが並んでいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からなくなってしまうよう、適切な位置に分かるような表示をしたり、ICFに基づき、している活動やできることなどを把握し、できる限り自立した生活が過ごせるよう支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295800078		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	医療法人社団駿甲会グループホーム実夢静波 2F		
所在地	牧之原市静波203番地の1		
自己評価作成日	平成25年7月25日	評価結果市町村受理日	平成25年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=229](http://x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=229)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成25年8月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

尊厳ある日常生活を基本に、ご本人らしく居心地が良く過ごせるよう、職員全員で取り組んでいます。また、母体法人の医療機関や関連施設との連携で、医療面や状態の変化時に対応できますので、安心感があります。

利用者の気持ちを理解できる、思いやりをもった職員を「静波ブランド」と称しており、それが理念のように浸透している事業所です。職員と一緒にひまわりの種を選定をする利用者に出迎えられ、また職員だけでなく利用者からも朗らかな挨拶発信があり、自由度の高さが瞬時にみてとれました。職員の定着率も高いため、希望休・公休が満足ゆくようにとれるなど職場環境も上質なことがシフト表からも視認できました。また、訪問時にも、職員間で業務をフォローし合う進言や声掛けが耳に入り、チームワークの高さが視えました。昨年の10月から音楽療法の効果評価研究に協力し、毎回40分程度午前と午後1回ずつの音楽に触れる時間があり、音楽療法士も週1回訪問しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設3年が達しました。職員全員で新しい理念を考え取り組んでいます。	職員会議では必ず「私達はどのようにしていきたいのか」を話し合っていて、理念につながる志や考えについて意識しあう機会があります。そのような取り組みから、開設からの理念を昨年度替えることにも至っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日は、近所のスーパーへ買い物に出掛けたり、散歩をしています。また、駐車場に出てレクをしていると、近所の方が遊びに来て下さいます。地域のお祭りには駐車場を解放して交流を行っています。	事業所の場所が2つの班にまたがっていることから、自治活動は自然に広域になっています。近所の庭に実った梅のおすそ分けからジュースを作ったり、事業所のレクリエーション活動に近所の高齢者が日課として参加している例もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の定期開催で、各班長様の出席をいただいたり、町内への施設ニュースの配布を行い、地域方々への情報発信を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月の1度の開催です。行政、包括、町内会長、民生委員、各班長、ご家族等の参加を頂いています。	運営推進会議は行政や自治会、民生委員の参加も得て隔月開催されています。「家族の参加が少ない」とのこれまでの課題も、管理者が電話などで個々にお願ひすることで解決されつつあります。また、面会では発言しないようなことも意見してくれ、参加者の良い刺激となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加を頂いたり、適宜、指導、助言を頂いています。	運営推進会議の案内と議事録を直接窓口へ届けており、行政職員や地域包括支援センター職員の参加も毎回あります。また、困難事例の問い合わせがあったり、事業所新設に関しての打診があるなど、行政からの声掛けをよくもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な会議で話し合いを行っていることと、権利擁護等の研修に参加しています。	年に1回は必ず管理者が外部研修に出向き、内部の勉強会で共有させ、また「だめ」ではなく「どうしましたか？」と声を掛けるようにと繰り返し伝えていきます。8時間勤務の中で1時間しっかり休憩をとるようにするなど、メンタル面のケアにも配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で話し合いを行ったり、権利擁護等の研修に参加しています。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいらっしゃるため、定期的に話し合いを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居→入居前に施設見学と、説明を行い契約前にも十分に理解していただいています。退居→ご家族が困ることのないよう、適切に対応させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、ご家族や御親戚からの、ご意見等をいただき、職員間で共有しています。	「実夢静波ニュース(月刊)」や運営推進会議議事録も毎回届け、日頃の様子を知ってもらえるよう努力しています。面会の少ない家族でも事業所の餅つきや花火鑑賞にも親戚をともなって訪れてくれるなど、家族との日常的な交流があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で、意見や、気づきを報告し合い、情報を共有しています。担当制になっていますので、細かく対応しています。	利用者の気持ちを理解できる、思いやりをもった職員を「静波ブランド」と称していて、職員に理念のように浸透しています。職員の定着率も高いため、希望休・公休が満足ゆくようにとれるなど職場環境も上質なことがシフト表からもみてとれます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設での情報を、定期的に法人本部に報告し、法人全体での運営基準に合わせ、職員が働きやすい職場作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人との連携で適宜、研修に積極的に参加しています。また、外部の研修にも職員が参加できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等で他事業所の職員機会を持っています。また、法人内のグループホームや小規模多機能施設などの情報交換を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に個人面談を行い、入居直後にもご本人の意向が聴けるよう努めています。ご家族とは、ご本人とは別に、面談の機会を設け、本人の意向、ご家族の意向の確認等を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切なサービスを提供し、ご家族との信頼関係作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切なサービスを提供し、ご家族との信頼関係作りにも努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される、立場でなく、入居されている方々と職員が家族のように過ごせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族との連携を重視し、ご本人を中心に关わる人で、支援していける関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を取り入れ、その人主体で生活が送れるよう努めています。ご本人、ご家族の希望があれば、ご友人等の面会もできます。	姪が手製のブラウスを届けてくれるなど、親戚や友人の訪問が多くあります。利用者の身体状態の変化により、通っていた理容店が来訪による散髪を継続してくれる例もあり、また在宅の頃の習慣として「食事に梅干し」、「水やり」、「針仕事」などを続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定位置での座席にこだわらず、レクなどの時は、積を替える等の工夫をしています。またフロア毎ではなく、常に行ったり来たり関係ができ幅広い交流が行えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も困りごと等があったら、遠慮なく連絡をもらえるようお願いしています。退居後もご家族が訪問されたり、連絡をいただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で得られた情報を元に、その人らしく暮らせるセンター方式を取り入れ、支援を行っています。また、ICFに基づいた考えで、できることの継続支援も行っています。	知人・友人の訪問者が多いため、家族だけでなく訪問者からも何気ない会話から聞き取るようにしています。独居だった利用者の、「家の様子を見たい」との要望にも職員が都度応えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅でのケアマネジャー情報を元に、ご家族からの情報収集、センター方式には、ご家族にも記入していただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状況などについて、アセスメントを行い、日々の支援(支援経過・受診記録・排泄記録等)から、ひとりひとりの現状の把握に努め情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の際は、ご本人ご家族の意向を伺い担当者がケアプラン会議で話し合いを行っています。	パーソンセンタードケアの実践により、職員の都合目線にならない姿勢があり、プランに反映されています。担当がプランの下地を作成し、計画作成と話し合った後、ケアマネジャーが監修するという流れで作成していて、「チームでつくる」ということが叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のスタッフ会議やケアプラン会議で、情報交換や意見交換等の話し合いを行い、都度、ご本人の変化等に対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしく、居心地の良い生活が送れるよう支援しています。個々の状況に合わせ、訪問介護サービス等の利用で対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々の訪問や、地域のボランティアさん、小学生からのアルミ缶回収の寄付などをいただき、地域で安心して過ごせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診はもちろん、かかりつけ医への受診も職員が対応しています。法人母体が病院のため、連携がとれ、常に適切な医療が受けられるよう支援しています。	「普段みている人が付添うのが本人にも医師にもよい」との管理者の考えから、通院は職員がすべておこなっていて、家族にも喜ばれています。看護師の訪問も週1回あり、また管理者が看護師ということもあって、判断が早めにつくという大きな利点をもっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問があります。常に24時間、連絡がとれる体制が整っているため、看護師の助言・指示が受けられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体である医療法人病院との連携はもちろん、地域の先生方との連携が取れています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは適切な時期に、終末期についての意向を伺ったり、話し合いを行っています。いちばんは、ご家族の意向を重視した支援ができるよう努めています。	重度化の指針も用意され、家族との合意形成もできています。また、職員に「ここで送ってあげたい」「わたしがいるときに逝ってほしい」との思いがあることが何より心強く、看取りにおいてもチームワークのよさがみてとれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時オリエンテーションや、定期的な勉強会で応急処置の勉強を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、地震、津波に対する訓練を行い、毎月、消防機器の点検を行っています。防火管理者は3名です。	運営推進会議では避難方法や優先順位について頻りに話し合っており、共通の理解としています。年2回の訓練のうち1回は消防署職員も参加しています。法人が安否確認システムを導入していて、また本年度は各施設の管理者はハム4級を取得することが義務づけられました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような発言は禁止です。研修に参加し、尊厳の保持に努めています。	「尊厳を守ることがその人らしさへの対応に繋がる」と考えていて、新入職員は必ず接遇研修に参加しています。職員間のチームワークがよいことが、利用者サービスにも繋がっていることを訪問時にも視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で、本人の思いが引き出せるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に業務が優先してしまうこともありますが、ひとりひとりのペースに合わせられるよう業務の見直しを行ったり、居心地が良い生活が送れるよう職員が努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院や床屋に行けるよう、職員が対応しています。お化粧品ボランティアさんの訪問も受け入れています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みが激しい方には、調理専門の職員が工夫して提供しています。時に外出してランチをしたり、アイスやたい焼き等を買って食べています。食事の準備や片づけは、できる方や、やりたい方にはお願いしています。季節の物を楽しみます。週3回の買い物には一緒に出掛けます。	ご飯に汁物、主菜に副菜2品、デザートとボリュームのあるメニューがたちまち消えてゆき、日頃の健啖さが覗えます。調理師免許をもつ調理専門の職員による家庭的な味に利用者も満足気な様子でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状況に合わせ、量や形態を工夫しています。また、摂取量の把握も行い体重管理にも努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、必要時は協力歯科医院への受診を職員が対応しています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄記録を行い、排泄パターンの理解に努めたり、病気の早期発見に努めています。オムツ→布パンツへ移行できるよう支援しています。	「紙オムツを減らす」ことを意識して取り組んでおり、職員の記録からも都度工夫している様子が見てとれます。定時誘導があるため、その時に全員の記録をとっていますが、そのほかは必要に応じておこなっています。3つあるトイレは向きを替えて設置しており、汎用性の高さがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとりひとりの排泄記録を行い、排便パターンを理解あいたり、水分補給や適度な運動、食事内容も工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時は決めていません。その方の意向に沿って、安心して入浴ができるよう努めています。	毎日湯をはっていて、時間も特に決めずに本人本位で取り組んでいます。また、苦手な人にも清拭や足浴に変更するなどし、清潔保持に努めています。石鹸を泡立てた素手洗いをおこない、剥離などの肌予防にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は決めておらず、その方のペースで過ごしていただいています。日中の活動量を増やして、安眠できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を添付し、内服薬や外用薬を管理しています。変更や追加には、申し送りノートを活用して、情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、その人主体で生活ができ居心地の良い生活が過ごせるよう努めています。ご家族にセンター方式の趣旨をご理解いただき、記入に協力していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	すべて、希望に沿って外出することはできませんが、できるだけ、希望に沿えるよう努めています。天気の良い日は近所へ出掛けたり、駐車場に出てレクを楽しんでいます。季節の行事等で出掛けます。	天候と体調を考慮した日常的な散歩にも努めていますが、お茶摘み・静岡空港など外出レクリエーションも豊富にあり、月2回程度はドライブがてら出かけています。また、職員がおこなうバドミントンの観戦も人気で、外気浴の一環となっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物がある時は職員と出掛け、自身の財布からの支払い等を行い、おこづかい程度を管理させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された時は対応しています。年の初めには、年賀状を送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が安心して、穏やかに過ごすためには、ご本人の意向だけではなく、環境も大事です。居心地良く生活できるよう努めています。	前だけキャスターが付いていて移動しやすい特注の椅子をはじめ、1階はコーラル、2階はマンゴーイエローでカラーコーディネートされた空間は大変いやすい空気が流れています。エアコンのほかにも扇風機をつかうなどして、温度や空調も調整しています。	大きさの異なるテーブルや小さなソファを置くなどして、居場所づくりも検討されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	無理強いせず、ご本人の思いで過ごせるよう、努めています。色々な人と交流ができるような配慮もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人が過ごす大事なスペースです。ご家族の協力も得ながら、居心地が良い空間が保てるよう努めています。好んで好きな物や馴染みの物を持参していただいています。	収納容量十分のクローゼットによるすっきりとした空間に加え、備え付けの電動ベッドの存在感がやや温もり感に欠ける印象を残しますが、テレビや位牌など自宅から馴染みのものが持ち込まれています。また、ラジカセの音楽を楽しみにする利用者の枕元にはカセットが並んでいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からなくなってしまうよう、適切な位置に分かるような表示をしたり、ICFに基づき、している活動やできることなどを把握し、できる限り自立した生活が過ごせるよう支援しています。		